

4月13日より帰国生徒学習会が始まりました！今回の「つながり」第2号では、主に新入生の自己紹介や、春の座談会の様子をお知らせします。新入生の自己紹介には、滞在していた国の体験や、附属中学校で頑張りたいことなど、たくさんの思いが詰まっています。ぜひ、ご一読ください。

🌈 新入生の紹介 🌈

生徒 1

私は約7年間ドイツに住んでいました。かなり幼い頃からいたため、帰国してからは驚きの連続でした。特に日本では手を挙げるときに手を開きますが、ドイツではそれはあまり良くないことだったので最初は戸惑いました。他にもドイツと日本の生活の違いは多く、慣れるまでにまだ時間がかかると思います。しかし、海外生活で学んだことを活かしていき、わからないことなどを教えてもらいながら、附属中で自分を成長させていきたいです。



生徒 2

私は小学校3年生から5年生まで中国の大連と言うところに住んでいました。中国に行く前は中国ってどんなところなんだろうと不安で頭がいっぱいになっていました。しかし、中国の人は優しく、大連という街は素敵な場所ですぐに不安はなくなりました。大連は海に囲まれているので海鮮が美味しいのです。ウニやアワビが大好きになりました。附属中では自分のまだ知らないことを学び、自分の経験したことを周りの友達に伝えたいです。

BINGO

春の座談会

すごろくトーク



これから
よろしくお願いします！

～保護者の方より～

オーストラリアは本当に住みやすい？

住みやすい国として、よく名前の挙がるオーストラリア。その主な理由は豊かな自然、多文化主義に基づく寛容さ、ワークライフバランス等がありますが、やはり「人」の要素が大きいのだと思います。オーストラリア人は laid back (のんびり) していることを大切に、周囲の人がそれを許容することで、個々の価値観を尊重するおおらかさの中で生活できます。一方で、生活費は高く、2000年のスーパーのレシートを見て、同じものを2010年に買ったなら49%も値段が上がっていたという調査結果があります。また、大都市圏への人口集中による渋滞や混雑も社会問題化しています。25年ぶりに日本で生活すると驚くほど安い値段で美味しいものが食べられる幸せを感じる一方、交通機関の混雑は想像以上でした。結局のところ、どの国にも良いところと悪いところがあるので、オーストラリア人を見習って自分と異なる価値観を逆に楽しんでしまうくらいの心の余裕を持てればどこにいても住みやすいと感じられるのかもしれない。